

1 自己評価及び外部評価結果

事業所番号	0691600134		
法人名	社会福祉法人 みらい		
事業所名	グループホーム きらめきの里		
所在地	天童市大字山口4540-1		
自己評価作成日	令和3年 11月 1日	開設年月日	平成29年 4月 1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
 基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/06/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市検町四丁目3番10号		
訪問調査日	令和4年 3月 7日	評価結果決定日	令和 4年 3月 22日

(ユニット名 A)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

前回の目標達成計画にも入っているが、コロナ禍で外出やいろいろな活動が制限される中、レクリエーション活動に重点を置き、施設内での楽しみ事など一人一人に聞き取りながらケアプランに落とし込み支援助に努めた。編み物や縫い物、計算ドリルや書道、かるた取り等、皆と一緒に楽しむレクリエーションや一人で楽しむ活動など選択肢も設けた。また、笹巻作りでは笹取りに出かけたりや干柿作りでは利用者の畑まで行って収穫する等、季節感を感じてもらえるような活動も行った。選挙の年であったがコロナ禍で唯一社会参加できる選挙に行けなかったことが悔やまれる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

長引くコロナ禍の中、職員は頻りに抗原検査を行うなど感染防止対策を徹底している。利用者支援についても、事業所は多くの工夫をしている。前回の目標達成計画を踏まえ、利用者のできることを大切に、過去にやったことを訊きだしながら楽しむことを支援している。特に「ことわざカルタ」は好評で、日頃見られない言動がでる等、新たな発見があった。また、地域との交流では「笹巻」や「干柿」を作る笹や柿を採りに行ったり、地域から果実・花などを頂くなど、交流が継続されている。加えて、タブレットを活用し部屋の様子を知らせるなど、家族との絆の継続に努めている。一方、理念の実践面では、職員間で月別目標を定め、実践の具体化を図るとともに、外部評価の際の「自己評価表」の作成に職員全員が関わるなど、「外部評価」を職員の気づきや自己啓発に活かす等、工夫を重ね取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果		項目	取り組みの成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
55 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	62 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
58 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
51 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新任研修の座学では必ず理念についての講義を設けている。職員会議でも話し合う場を設けている。	法人理念を踏まえて、事業所職員で、「楽しみ」「厳格なコロナ対策」など具体的な目標を定め、それをリビングに掲示しながら、共有し、実践している。全体会議では、特に、出来ることを大切に、楽しく、地域とのかかわりを持ちながら生活できる支援を確認している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年に引き続き、コロナの影響で毎年交流していた地域の居場所づくりカフェ、夏祭り、山口小学校で施設に来てくださっていた行事がすべて中止になってしまった。	コロナ禍以前のように夏祭りへの参加等々の交流はできなくなったが、区内の方々から、果物・野菜・花々を頂戴したり、入居者が干し柿づくりの柿もぎ、笹巻作りの笹とりに地区内に出かけたり、職員の工夫で、地域との交流が切れないように努力している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	天童市が開催している認知症カフェに職員がスタッフとして時折参加していたがコロナの影響で中止になった。	/		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回開催していた運営推進会議はコロナの影響で開催はせず、資料の送付だけになってしまった。	今年度も対面での会合を控え、会議資料の持参・送付とその際の会話や電話での意見聴取をもって運営推進会議としている。会議メンバーも市職員、包括職員、区長、民生委員、家族等で変わらず、2ヶ月毎に、利用者の生活、行事等が報告されている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	職員が介護保険の認定審査会の委員になっているため市役所職員とは連絡を密にしている。また、介護保険の更新の手続きやオムツ支給の変更など市役所に行く機会が多く協力関係が築けていると思う。	市職員から運営推進会議委員になって頂いているので、推進会議用資料を持参した折や、介護認定関係や生活保護関係で相談する折に情報交換を行い協力関係を築いている。特に今年度はワクチン接種で緊密に連絡を取り合った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	自己評価を全員で取り組み、グループホームについて経験がない職員も1項目ずつ取り組むことにより自分の介護の振り返りや身体拘束をしないケアについて話し合うことが出来た。また身体拘束について内部研修を行っている。夜間はセンサーマットを使用し転倒防止に努めている。	全体会議の際に、指針を確認し合うとともに、様々な事例を勉強し合っている。また、外部評価を受ける際に、自己評価は職員全員から記入してもらい、グループホームでの拘束をしない支援の在り方についても振り返ってもらっている。対応は家族にも説明し意見を頂戴している。帰宅願望のある利用者については、見守りや声かけを工夫し、利用者同志の支え合う場面もみられる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を通して防止に努めている。また、職員会議でも言葉掛け一つで虐待になることもあるなどことあるごとに職員に話をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者1名が成年後見制度を利用し、補助人2名がついている。2名とは利用者のお小遣い等話し合い、本人の要望に沿えるよう連絡を多く取っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には契約書や重要事項説明書等時間をかけて説明し疑問には答えている。入居後も質問等にその都度応えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話では本人の状況を報告し家族とのコミュニケーションを図り信頼関係を構築している。面会はしばらくは禁止であったが、途中からマスク着用し2階ホールと1階玄関先と離れての面会になった。ケアプランの説明時は家族に要望を聞いている。	利用者については、日常生活の会話から本音を聞きだす努力をしている。家族からは、面会・診察の付き添い・ケアプラン作成などの際に、詳しく聞きだし、それらを運営に活かすように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、全員参加の会議を行い職員の考えを拾い上げている。月目標も職員で決めている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休憩室の確保や休憩時間はきちんととれるよう環境が整っており、職員の労働意欲の向上に努めている。			
13	(7)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内研修で新人研修は多岐にわたり座学の研修を設けている。経験のない新人職員に対しても、毎日職員と話し合いその日の目標を設定し職員の習熟状況を確認しながら3か月にわたり研修を行っている。	法人の研修委員会が企画した年間研修計画による研修、外部主催のオンライン研修、事業所の全体会議を活用した内部研修によって必要な研修機会を提供している。現在は、新規採用職員の研修に力点を置いている。特に未経験の職員には、その日の目標を定めたりして集中的に指導し、効果的なOJT研修となっている。		
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナの影響でグループホーム連絡協議会、村山地区ブロック会議、計画作成担当者研修や交換研修等リモートでの参加になり、その都度参加し交流する機会を作っている。	現在は、他地域との交流を控えているため、グループホーム連絡協議会などのオンライン研修・意見交換会などに参加し、他事業所のケアスタッフと交流できるように図り、その知識やネットワークを事業所で活用するよう努めている。		

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	同法人ショートを利用中に面会し、要望等聞いているが、分からないとの言葉が返って来たり、意思疎通困難な方には笑顔が返ってきて笑顔でのコミュニケーションで関係作りを行った。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今までのような施設見学はできなく、居室に入ることが出来ないため、タブレットを使って写真を撮って様子を理解してもらった。また、契約等の説明時に家族が不安に思っていること要望等を聞いている。また入居してすぐの様子を写真を動画にしてお伝えしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約時に介護サービス以外に往診や口腔ケア、在宅マッサージ、オムツ支援等、必要に応じて選択肢があることとお話している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	様々な生活のお手伝いをさせていただき、そのつど感謝の言葉を述べ、ここで必要としている方であること、存在感を感じてもらっている。また、帰宅願望がある入居者に対し職員がお願いしなくとも、話し掛けてくださるなどいい関係が見られる。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナの影響で2階と玄関先と離れての面会時や電話連絡の際に家族にはグループホームの様子を伝えている。また本人と代わり電話で話す機会を設けている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの影響で施設内の他事業所に移った元利用者や家族との面会は限られているものの電話や手紙等で支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を把握し席の位置を考慮している。またレク活動や食事の盛り付け食器拭きなど家事活動を通して利用者同士が支えあうような関係を構築している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	コロナの影響で入居者をお連れして面会に行くことが出来なくなったが職員が施設内他事業所に移った入居者に面会しその様子を伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入浴時など1対1になったときのコミュニケーションを大切にしており本人の気持ちを聞き出すように心掛けている。困難な場合は表情や生活歴から汲み取っている。	利用者の日頃の会話や様子から読み取れる思いを、記録に詳しく記載されている。特に、入浴やゲームなど楽しみの際などのコミュニケーションを大切に、本音を聴くようにしている。アセスメントでは、その記録を基に、皆で思いを汲み取る話し合いを行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報をケアマネージャーや、病院に事前面接時にソーシャルワーカーから得た情報を共有している。入居後はご本人や家族面会者への聞き取りによる情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の言動や行動、心身の状況をケース記録や申し送りノートを活用しながら把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の希望を聞きまた家族にもどのように暮らしてもらいたい希望を聞きそれぞれの意見に反映した介護計画を作成している。特にケアプランでは出来ることに焦点を置いている。	変化がなければ6か月毎に計画の見直しが行われている。モニタリングや詳しく記載された記録を基に、カンファレンスが行われている。「コロナ禍の中でも、出来ることを活かして楽しく生活できる」というコンセプトのもと、話し合いを繰り返し、アイデアや様々な意見を出し合い、家族の意見も踏まえ、現状に即した介護計画を作成している。本人の意向が詳しく記載されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録はケースに記入しそれを業務日誌におとす。また申し送りノートや利用者全員について毎月のミーティング時に介護指示書の見直しを行い、情報を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域の理美容室を利用している。またコロナの影響で中止になってしまったが公民館で開催している居場所作りカフェ、夏祭り・地域のマラソン大会の応援は中止になった。季節ごとに地域の果物やお花等を頂いている。</p>			
29	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>受診は入居前のかかりつけ医などの支援や家族の要望があった場合は往診の先生に切り替える、また、往診の先生から入院した先生に退院後も継続するなど家族の要望に応じて支援している。</p>	<p>利用者・家族が希望する医療機関の通院を、家族や職員の付き添いで継続している。往診してくださる地域の医師もいる。受診時は「日常生活を記載したメモ」を持参し、医師に伝達し、受診結果は家族と電話で交換されている。関係者間で情報が共有され、適正な医療が受けられるよう支援している。</p>		
30		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>月2回の訪問看護師の来所時は日々の様子を報告、相談し助言をいただいている。また特養看護師が、往診の先生の指示のもと採血等もしてくれている。</p>			
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時の基本情報、GHの様子等をお渡しスムーズに入院生活ができるように支援している。入院時はコロナの影響で面会は出来ないが家族との連絡をとりなるべく早く戻れるよう、戻った際の留意点を確認しながら支援している。</p>			
32	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居者が入院し退去になった時に、他入居者にその事実をお話し、自分が看取り期に入った時にどうしたいか何気ない会話の中で聞いている。契約の時にGHでは看取りをしないこととお話している。</p>	<p>入居時に、事業所としてできることとできないことを詳しく説明している。状態に変化があった場合には、主治医・家族・訪問看護婦・事業所で早期に話し合い、方針を繰り返し検討確認し、情報共有しながら対応している。看取りについては、現在対応していない。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生法やAEDの内部研修を行い、急変や事故、夜間等の救急対応に備えているが、まだ経験したことがない職員がほとんどであり、実際動けるか不安である。			
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年1回の通報訓練、避難訓練は定期的に、行っており災害対策をしている。	今年度は、豪雨・火災の避難訓練を実施した。その他、ハザードマップの確認、消火器使用訓練、連絡訓練、炊き出し訓練などの経験もある。敷地内の他施設と共同で、水や食糧などの備蓄も行っている。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症になっても家庭を守り、一世代を築きあげた方々であることを尊重した介護でありたいと心掛けている。丁寧な言葉では距離を感じるし、方言で気軽な言葉になってしまいすぎるとどんどん崩れていくため永遠のテーマである。	研修のほか、全体会議で話し合いを行っている。特に、「一世代を築きあげた方々であることを尊重」するために、その方の生活歴や、苦労した時代背景などを理解し合いながら、一人ひとりの人格の尊重に繋げるよう心掛けている。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	入浴時など1対1の時に本音を聞いたり本人が決定しやすいよう二者択一にしたり言葉では表現ができない利用者には表情で思いを汲み取っている。			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな1日の流れの中で決まりはあるが起床時間や就寝時間などその人に合わせている。日中は手芸・編み物・オセロなどその人の体調や気分を考慮しながら希望に沿った支援を心掛けている。夕食後は好きな歌番組を楽しんでいる。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容室や慣れ親しんだ美容室で定期的にかットや毛染め・パーマ・顔剃りなどの支援を行っている。洋服の購入や通販を利用するなど支援している。服は自分で決定できる人は準備し、出来ない方は職員と一緒に選んでいる。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けから食器洗い食器拭き等の片づけをお願いしている、入居者間で役割分担が自然と出来ておりスタッフはスムーズに行われるよう見守り介助、時にアドバイスしている。	三食とも、暖かいごはんや敷地内手作り副菜などで家庭的な料理を楽しんでいる。盛り付けや後片付けには利用者も協力している。日常会話で希望を聞くとともに、「ひな祭り」「敬老会」「芋煮会」などで行事食を楽しんだりしている。また、皆んなで、地域の材料を活用し、「笹巻き」や「干し柿」を作ったりして食を楽しんでいる。		
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が作成した栄養バランスのとれた食事を提供している。摂取量や水分量を記録し、全量摂取できるよう声掛けを行っている。苦手な物や禁食の場合は代替食を提供している。水分摂取が苦手な利用者には何を好むのか確認しながらこまめな水分補給を促している。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きの声掛けをし能力に応じ準備や介助をしながら全員が歯磨きを行っている。希望者には口腔ケアの往診のサポートをしている。口腔体操、嚥下体操も行っている。			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の状態を記録しパターンを把握することで排泄の失敗を軽減し自尊心を傷つけないような声掛けを努めている。夜間でもポータブルトイレを使用するなどその方の排泄機能を最後まで残した支援をしている。	排泄の記録から一人ひとりのパターンを把握・確認し合いながら、適時声掛けと誘導によって、トイレで、便器に座って、自分で排泄できるように支援している。昼はパット・リハパン等の調整で、夜間も出来るだけ便座での排泄支援に力を入れている。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日定時に体操を行ったり、水分を多く取るように声かけしている、便秘気味の利用者には水分を多く摂取するように声かけをし場合によってはマッサージを行い主治医に相談し下剤を処方してもらい定期的な排便に繋げている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
44	(17)	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>入浴は利用者の身体能力に合わせてパンジー浴や個浴で行っている。お湯の温度や浴槽に浸かる時間はのぼせない程度に好みに合わせて行っている。気分が乗らない時は時間をずらしたり入りたいと思うような声かけを工夫している。</p>	<p>利用者の希望を踏まえて入浴を促し、週2回は入浴できるように支援している。声掛けを工夫したり、変わり湯で楽しさを増し、その中で利用者同士1対1で多くの本音の会話を交わし、入浴を楽しむとともに、利用者とのコミュニケーションを深めるよう努めている。</p>		
45		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>夜間は良眠で過ごしてもらえるよう日中の過ごし方を工夫し体操など活動的に取り組んでいる。歌番組を見て楽しんでからの就寝だったり就寝時間も一人一人に合わせている、日中に午睡の時間を設けたり、夜寝る時は湯たんぽ、電気毛布、エアコンの適正な使用で安眠できるようにしている。</p>			
46		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>管理は職員が行っている。1日の薬を準備する人飲ませる人複数で準備し本人へ渡す際は分包になっている袋の名前日付を利用者へ見せながら利用者へわかるよう読み上げ誤薬や飲み忘れが無いように努めている。気になったらいつでも確認できるようにお薬手帳は取り出しやすい所に置いている。</p>			
47		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>入居時に生活歴を確認し出来ること昔楽しんだことを聞き出し生活を通して色々な役割活動を通して生活に張り合いが持てるよう、して頂いたことに関して感謝を伝えている。</p>			
48	(18)	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>コロナ禍で自由に外出は難くなったが施設の周りの散歩やドライブを行い、自宅に寄って柿をもらったり花を採ってきたりしている。また通院の帰りにブティックやマーケットなどにより欲しいものを購入してきている。</p>	<p>従来、立地環境を生かしながら、行事参加など様々な機会でも外出していた。現在は、付近の散歩のほか、自宅に立寄って柿や花々を採ってきたり、また、通院帰りに買い物をしたり、コロナの状態を踏まえて花見や紅葉狩りのドライブに出かけたり、工夫しながら、外気に触れ、気分転換を図る支援を行っている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>原則施設の方針でお金の所持は出来ない、例外で補助人がついている利用者のみ、お小遣いをもらい買い物をしている。お小遣い帳で職員と収支を合わせている。</p>			
50		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>本人の希望により電話を掛けたいときは掛けている、手紙も自由に書けるよう支援している。その際住所・氏名を確認し書き直して投稿している。</p>			
51	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>温度、湿度を毎日のチェック表で管理し、コロナ禍でもあり定期的に換気を行っている。テレビはつけっぱなしにせず食事時、お茶時、レク時は会話を楽しんだり集中できるように消している。季節感ある作品を利用者と一緒に作成し季節感を感じてもらっている。</p>	<p>居間は、温度と湿度の管理が行われ、換気も定期的に行われ、利用者が快適に過ごせるよう配慮されている。掃除もなされている。壁面には写真や展示品が飾られている。季節感も感じられ、居心地の良さが感じられる。</p>		
52		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>自分の定番の席があるものの、いつもの席ではないところに座って会話を楽しんだり、ソファーでは隣同士で座って会話を楽しんだり、新聞やテレビを見る等している。</p>			
53	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時には馴染みの物や自分で作った物、家族の写真等を持ってきてもらっている。またラジオやラジカセ等を楽しんで聞けるよう支援している。</p>	<p>利用者がその人らしく過ごせるように、馴染みの調度品や家族の写真等を持ち込んで貰い、また、ラジオなどを楽しんで、安心して居心地よく過ごしてもらっている。温度や湿度、清掃にも配慮されている。</p>		
54		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>施設内は動線に考慮して手すりがついている。立ち上がることが出来るようベッドの高さを一人一人に合わせて調整している。床は転倒しても衝撃が少ない材質でできている。トイレは車椅子や歩行器で入れるトイレもあれば、一人で入って転倒しそうになった時すぐ壁や手すりにつかまれるような狭さだったり、安全かつ自立した生活が送れるように工夫している。</p>			